

## ドイツの保育施設における子ども達の参画 — 多様性の教育を観点として —

Partizipation der Kinder in Kindertageseinrichtungen in Deutschland  
— unter dem Gesichtspunkt der Pädagogik der Vielfalt —

船 越 美 穂

Miho FUNAKOSHI  
(福岡教育大学)

(平成27年9月24日受理)

### I. はじめに

筆者は、これまでの研究においてドイツ青少年大臣及び文部大臣会議で2004年に可決制定された「幼児教育のための各州の共通大綱」<sup>1</sup>、さらに「バイエルン州幼児教育計画」<sup>2</sup>、及び「シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州幼児教育指針」<sup>3</sup>において、子ども達の参画がどのように位置付けられているのか明らかにした(船越2012, 2013, 2015)。「幼児教育のための各州の共通大綱」では、保育のあり方については、総合的援助(ganzheitliche Förderung)、生活世界に基づいた活動、適切な参画の機会を提供することが、乳幼児期の教育プロセスにとって有効であるという見解が打ち出された(船越2015)<sup>4</sup>。「バイエルン州幼児教育計画」では、保育施設における子どもたちの参画は、民主主義へのルールへ導き、初期の政治教育の重要な機会になるという観点から、日常生活における会話や朝の会、プロジェクト学習、さらに子ども会議などの果たす役割と重要性が示されていた(船越2012, 2013)<sup>5</sup>。「シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州幼児教育指針」では、民主主義を指導原理として位置づけ、保育実践の6つの横断的次元の第一に参画的志向を置いて、保育施設は民主主義を学ぶ場所として位置づけられていた(船越2015)。

実践に関しては、筆者のフィールドワークによれば、バイエルン州(主としてミュンヘン市)とシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の保育施設共に、クラスの垣根を越えた提供活動(オープン

保育)やプロジェクト活動が中心的位置を占めていることが分かっている(船越2013, 2015)。オープン保育もプロジェクト活動も共に保育施設における子ども達の参画を支える重要な実践的条件になっている。

筆者は、これまでの研究、及びドイツの保育施設におけるフィールドワークの中で、一つの確固とした教育理念によって子ども達の参画が捉えられ、支えられていることを理解した。それは「多様性の教育」(Pädagogik der Vielfalt)である。ドイツは今やヨーロッパの中でも屈指の多民族国家となっている。連邦移民難民庁の「移民報告2013年」によると、ドイツの人口の5人に1人、10歳未満の子どもでは3人に1人が移民の背景を持っている<sup>6</sup>。ドイツにおける2014年の亡命申請は202,834件で、前年度を大きく上回った。2015年1月～7月では218,221件で、すでに2014年の数を上回っており、EU加盟国の中で最高値である<sup>7</sup>。2014年以降のシリア、コソボ、アフガニスタン等からの難民の流入によって、ドイツの多民族化は今後さらに拍車がかかることが予想される。移民の増加に伴って、学習権の保障に向けた就学前教育の果たす役割と責任はさらに重くなってくるであろう。そして、子ども達一人ひとりの違いに依拠しながら、発達を保障する多様性の教育と参画的実践がより重要性を増すことになる<sup>8</sup>と考える。

本稿では、バイエルン州幼児教育計画(以下、原語からBEPと略)を中心に、カリキュラムの

中で多様性の教育がどのように位置づけられているのかについて明らかにする。さらに筆者が行ったミュンヘン市の保育施設のフィールドワークで収集した実践事例を用いながら、保育施設における多様性の教育を支える保育実践と内的分化の実際を明らかにする。

## II. インクルージョンと多様性の教育

子どもの権利条約（1989）、サラマンカ宣言（1994）を経て、国連障害者の権利に関する条約（2006）をドイツが2009年に批准して以来、インテグレーションの発展として、教育の場にインクルージョン理念が導入された。インクルージョン理念の自覚によって、保育施設における子ども達の多様性への教育にも意識が向けられ、すべての子ども達が日常の保育に参画するという目標が共通理解されるようになった。

BEPの指導要領として刊行された「3歳未満児の陶冶、訓育、養護—バイエルン州幼児教育計画指導要領」<sup>8</sup>では、「障害理解はたえまなく発展し続けるという認識と、障害は能力が減じている人々と、考え方や環境に条件づけられたバリアとの間の相互作用から生まれる」<sup>9</sup>と述べ、障害理解についての認識の共通理解が図られた。さらに、インクルージョンについては次のように定義がなされた。

「インクルージョンの現代的コンセプトは障害をもった子ども達のみを対象としているのではない。むしろすべての子ども達、つまり様々な年齢の女児と男児、ドイツ人の子ども、移民の背景を持つ子ども、障害を持つ子ども、高い発達リスクを持つ子ども、ギフテッドな子どもが可能な限り、同じ教育施設に通って、共同の生活と学習を経験することがあらかじめ考慮に入れられている。」<sup>10</sup>

対象者を障害の有無に限定するのではなく、すべての子ども達とすることによって、あらゆる保育施設において多様性への配慮が求められることになった。2012年に刊行された「共同責任—小学校終了までの子ども達のためのバイエルン州教育指針」<sup>11</sup>（以下、「バイエルン州教育指針」と略）では子ども達の多様性について次のように述べている。

「教育施設は個人の人格の多様性が出会う場所である。子ども達は、年齢、性別、気質、長所、

才能、興味、学習と発達のテンポ、固有の学習と特別な支援ニーズ、文化的又は経済的背景に関して違っている。……一人ひとりの子どもは学びの共同体に、独自の背景と個別の歴史をもたらす。」<sup>12</sup>

「インクルージョンは国際的合意、国民的権利、及び教育理論と構想で具体化された社会的、教育政策上の根本方針と表現される。それは排除のない生活世界を目指している。中心には基本的平等を基盤にした人間の違いの承認がある。これは不均質性に対する尊重と開放性、個人の違いへの相互認識、共に居る様々な場所を含んでいる。」<sup>13</sup>

乳幼児期から小学校終了までの子ども達対象の「バイエルン州教育指針」において、子ども達の多様性として気質、長所、興味、学習と発達のテンポをも含めることによって、一人ひとりが特別なニーズを持った存在であることが明示されたことは画期的なことである。教育施設は多様性の出会う場所であり、これこそ学びの共同体の前提条件なのである。以上のように、多様性の教育は、インクルージョン理念の高まりを背景に、より自覚化されるようになったのである。

## III. BEP と多様性の教育

BEPは、2001年にバイエルン州労働、社会秩序、家庭、女性省から委託されたIFP（Staatsinstitut für Frühpädagogik: 乳幼児教育研究所）によって作成された、乳幼児期の保育施設のための教育計画である。2003年から2004年にかけて暫定版が完成し、バイエルン州全土の104の施設で試行・フィードバックが行われ、2006年に最終版が出版された。その後も改訂が加えられ、2013年現在で6版を重ねている。



写真1. バイエルン州幼児教育計画（BEP）

BEP では個人の違いと社会文化的多様性とのつきあいについて、次のように述べている。

「子ども間の、例えば性別、出自、文化、宗教、発達のテンポにおける違いは正当と認められなければならない。子ども達は特別な注意と評価を必要としている。違いは豊かな学習状況を提供し、よりいっそう共同の学習利益へ導くことができる。それは組織的、教育的観点で顧慮されなければならない。」<sup>14</sup>

違いこそが豊かな学習状況を生み出すという観点は、多様性の教育の共通した考え方である。さらに BEP では3つの重点事項が示された<sup>15</sup>。

①社会的インテグレーション：教育施設には社会的排除に適切に対応し、すべての子ども達に公平で平等な共同の学習及び発達の機会を提供する責任がある。

②個人への同伴（Individuelle Begleitung）：子どもの違いに応じ、一人ひとりの子どもを可能な限り最善に同伴すること、それは内的分化の原理によって可能である。これは共同の学習活動時における、多様な提供活動と個別の学習への同伴のことである。

③文化的開放性：さまざまな文化背景を持った子ども達が出会う共同の学習活動は、異文化間コンピテンシーを練習するのに適している。たとえ完全には理解していなくとも、子ども達は他の文化に好奇心を持って、違っていることを尊重することを学ぶ。

多様性の教育理念は BEP 全体を貫いているが、特に第6章の中で主題化されている。BEP では年齢、性別、文化、発達リスクと障害、ギフテッドといった5つの観点で子ども達の多様性を捉えている。以下、各項目について見ていくことにする。

## 1. 様々な年齢の子ども達

旧西ドイツでは3歳～就学期までの異年齢混合グループが保育施設の伝統<sup>16</sup>であった。現在ではさらに拡大された異年齢混合グループが見られる。例えばミュンヘン市には、生後9週間から12歳までが在籍する施設が存在する<sup>17</sup>。BEP では異年齢混合グループの有効性について次のような観点をあげている<sup>18</sup>。

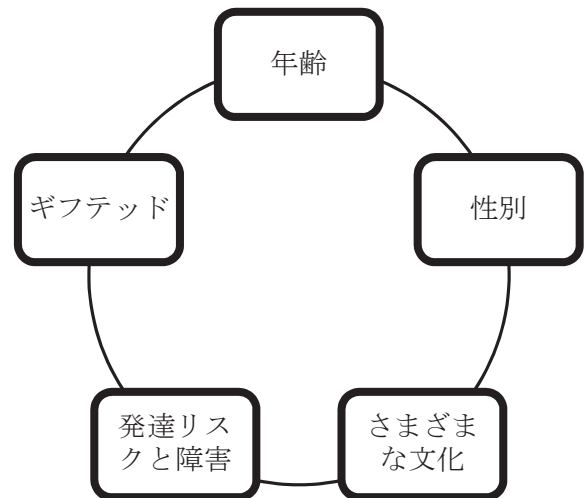


図1. 保育施設における多様性  
(BEP における5つの多様性の観点に基づいて筆者が翻訳作成した。)

- ・多面的な学習と経験の機会の獲得
- ・興味と発達に適合した遊び友達の選択が可能
- ・比較されたり、年齢レベルで測定されることが軽減される
- ・競争の圧迫にさらされることが少ない
- ・異性の子どもとかかわる機会が増える
- ・子ども同士の学びが多くなる
- ・年少児は年長児から多面的刺激を得る。年長児の技能を真似ようと集中して観察し努力する。
- ・年長児は年少児から多面的刺激を得る。年少児に教える中で、自分の能力と知識を練習し、深め、確信と自信を獲得する。
- ・年齢混合を拡大した保育施設では、移行（Übergang）の数が軽減される。→関係の持続性が図られる

さらに、陶冶と訓育目標について次のように述べている<sup>19</sup>。

- ・共生について学ぶ
- ・配慮、親切、寛容を学ぶ
- ・年長児及び年少児に対して自分の利益を守る
- ・援助を受けると共に、経験の乏しい子どもを援助する
- ・自分の言動を理解し、反省する
- ・違いにかかわることができる
- ・討論を通して対立解決能力を獲得する
- ・さまざまな願いと行動様式を調整し合う
- ・年少児及び年長児の利益を認識し、関心を持つ





写真2. 子ども達の家（幼稚園と学童保育併設型施設）

## 2. 女兒と男児

BEP では、性別アイデンティティーにとって保育施設の年月が特に重要であるとしている。つまり、子ども達は男の子あるいは女の子であることがどんな特徴を持つのか、どんな役割をもてるのかについて徹底的に取り組む<sup>20</sup>。子ども達はメディアによって一方的に影響される社会的メッセージの単なる受け手だけでなく、彼ら自身も環境の提供物の中から選択し、男らしく・女らしくあるという多様な可能性の中に自らを位置づけることによって、性別アイデンティティーの主体的作り手なのである<sup>21</sup>。

陶冶及び訓育目標については次の通りである。

- ・「女性であること」「男性であること」には多様なバリエーションがあることを知る
- ・性別に関する規範、価値、伝統、イデオロギーの背後を批判的に調べる

性別センシティブな教育的基本態度として、「女兒と男児は同じ価値があり同権である」、「知性、天分、能力等の人格的特徴の共通性は、違いよりも大きい」、「社会的性差は固定的な人格的特徴ではない」ことが示されている<sup>22</sup>。

BEP では、教職への男性のいっそうの関与が促進されることが提言されている。男性保育者の増加が最も求められるのではあるが、困難である場合は、父親が関与する保護者活動、男性の実習生の配当、男性の職人や芸術家の保育施設への協力によって代替され得る<sup>23</sup>。

実践の中では、状況に応じて、男女混合、または男女別のグループが選択され、性差に関する学習状況が作られたり（内的分化）、役割遊びの中で性別ステレオタイプを克服することが促される

必要がある。写真3は、後述するS総合保育施設での2歳児女兒の木工活動の場面である。工房での作業への参加は自由意志であり、危険が伴うため保育者が同伴することになっている。当日7名の女兒の参加が見られた。別の2歳児の女兒は30分以上のこぎりで木材を切ることに挑戦していた。写真3の女兒は金槌で釘打ちをすることに取り組んでいる。保育者は年少の女兒達の意欲と関心を、真剣に受け止めて援助している。体力を必要とする活動、冒険心を起こさせる活動、自然科学的な活動はともすれば男児が中心に展開する傾向がある。年少児の頃からの性別センシティブな教育的態度は、子ども達の可能性を広げることにつながるのである。



写真3. 2歳児女兒の木工作業への支援

## 3. さまざまな文化背景を持つ子ども達

BEP によれば、異文化間コンピテンシー（Interkulturelle Kompetenz）は二重の観点において重要な教育目標である。つまり、①個人の人生と職業機会を開くことに役立つ。②多様な文化、言語、伝統をもつ個人、集団、地域の構造的・平和的仲間関係のための基本的コンピテンシーである<sup>24</sup>。異文化間コンピテンシーの本質的観点とは、文化的、言語的開放性と好奇心である。様々な言語と文化との共生が当然のことであり、他の生活様式に関心を持って理解し、学び、「見知らぬものの体験」とも構造的にやりとりすることである<sup>25</sup>。

陶冶及び訓育目標については、「文化的開放性と好奇心」、「二言語使用と多言語主義」、「見知ら

ぬことへのコンピテンシー」,「差別の様々な形式への敏感性」といった観点で主として、次のように述べられている<sup>26</sup>。

- ・文化的及び言語的違いを大いに尊重し、豊かさと学習チャンスとして受けとめる
- ・他の言語への好奇心と喜びを促進し、多言語主義を豊かさとして理解する。
- ・自分の見方を多様な観点の一つとして捉え省察することを学ぶ。
- ・差別、排外思想、人種主義を知って、闘うことを学ぶ。

加速化するドイツの多民族化を前に、さまざまな文化背景を持つ子ども達の保育施設への参画については、今後のさらなる取り組みが求められるであろう。

#### 4. 発達リスク及び障害を持つ子ども達

BEPにおける多様性の教育の中で、発達リスク及び障害を持つ子ども達の教育については、次の法律が根拠となっている。

「障害を持った子ども、あるいはそのおそれのある子どものための援助は、可能な限り障害を持たない子ども達と共に保育され、彼らの社会的地域環境から分離されないように計画されなければならない。」<sup>27</sup> (社会保障法典IX, 第4条)

「保育者はすべての子ども達を人間生活の多様性に応じて教育プロセスへ平等に統合し、一人ひとりの子どもをそのニーズに応じて個別に支援しなければならない。保育者は社会的共生の意味での社会生活への参加のための子ども達の能力を促進しなければならない。」<sup>28</sup> (バイエルン州保育法, 第11条(1))

発達リスク及び障害を持つ子ども達の場合においても、教育方法は「協同的で、遊び中心の総合的な学習形態」を重視すること<sup>29</sup>、保育施設における治療的支援もなるべく「総合的」に構想されなければならないとされている<sup>30</sup>。

#### 5. ギフテッドな子ども達

BEPでは、多様性の中に、ギフテッドな子ども達をも包含している。統計上100名定員の保育施設に2名程度しか在籍しないと言われているギフテッドな子ども達であるが<sup>31</sup>、保育者には彼らの特徴を把握して適切に対処することが求められる。

「すべての子ども達は個別の支援への要求をもっている。ギフテッドな子ども達も適切な学習提供によって促進され、挑発されることが重要である。」<sup>32</sup>

ギフテッドな子ども達に対する教育方法も、総合的学習プロセスであるべきで、遊びと生活の中からの学びが基盤でなければならない。

「彼らもまた保育施設では通例となっている総合的学習プロセス (ganzheitliche Lernprozesse) を必要としている。ギフテッドな子ども達は保育施設で『学校指向』の教育アプローチから利益を得るのではなく、適切な要求水準が保証される限り、協同的、自主的、発見的、遊びを通じた学習のための多くの機会から利益を得るのである。」<sup>33</sup>

以上のように、BEPにおける多様性の教育の目指すところは、一人ひとりの子ども達が自分のテンポで、遊びや生活に参画し、総合的に発達することなのである。

#### IV. ミュンヘン市S総合保育施設の多様性の教育と内的分化

多様性の教育に重きを置くドイツの保育施設では、一人ひとりの子どもの発達や興味関心に沿った日常生活への参画を実現するために、内的分化 (Innere Differenzierung) の原理によって、乳幼児期から小学校期を通じて教育活動が構成されている<sup>34</sup>。例えば、朝の会やプロジェクト活動は不均質なグループで行う一方、必要に応じてある観点によって適切に均質化されたグループが構成され、活動が展開する<sup>35</sup>。

ミュンヘン市立S総合保育施設 (Städtische Kooperationseinrichtung) は、1998年にミュンヘン市学校文化課 (現在の教育スポーツ課) によって設置された、生後9週間から就学期までの子ども達136名定員の比較的大規模な施設である。横長の建物は4ユニットに区分され、各ユニットが一つの「家」(2グループ構成) のように機能している。筆者による観察日は、2007年11月26日、27日、28日の3日間で、主として一つのユニットを継続観察した。観察対象は子ども39名、保育者5名であった。ここでは、S総合保育施設の保育実践及び「S総合保育施設コンセプト」<sup>36</sup>を通して、多様性の教育と内的分化について見ていくことにする。



写真4. S 総合保育施設の外観

### 1. 環境構成と色彩

S 総合保育施設のコンセプトによると、教育的働きかけは様々な機能ルームやコーナー、色彩構成のような室内環境によってもなされると述べられている<sup>37</sup>。心地よい雰囲気の中でこそ、子ども達は庇護されていると感じ、豊かな社会的コンタクトと発見学習が促進される。日本の保育環境と比べて特徴的なのは、誰にも邪魔をされずにいつでも休息の時間をとることのできる部屋やコーナーが設けられていることである。S 総合保育施設によると、子ども達の経験を消化する機会を与えるのが休息時間であると捉えられている<sup>38</sup>。



写真5. 休息ルーム

### 2. 教育観

S 総合保育施設の教育方針は以下の通りである。

「家庭教育を補い、家庭を支援する施設として、子ども達のために総合的指導の枠組みの中で、五感を使って環境から幅広い印象を受け取れる体験空間と時間をもたらす。子ども達に新しい状況とうまくやりとりできるために安心感を成立させる。子どもが施設に慣れた後、拡大された異年齢混合グループでの生活から利益を得ることができる。年少児は大人の援助によってだけでなく、年長児の見くびることのできない一員としても学習する。こうして年少児は大人と他の子ども達双方から、承認されることを経験する。年長児には家庭でのきょうだいのように、年少児のリズムに合わせて受入れ、配慮する経験を提供する。年長児は彼らに委ねられた責任を喜んで受け入れ、年少児を日常的に援助する。自由遊びの間は、自然発生的に同年齢又は異年齢グループが形成される。他方、適切な支援を行うために、保育者によって積極的にグループ形成が行われる。」<sup>39</sup>

S 総合保育施設は生後9週間から就学期までの子ども達が共にグループを形成する施設である。拡大された年齢混合グループの教育的効果を大いに発揮させると共に、意識的に保育者によって内的分化を行っているのが特徴である。

発達と学習は次の観点によって促進される<sup>40</sup>。

- 好奇心を呼びさます
- 知覚を鋭敏にさせる
- 自己活動の支援
- 発見願望の強化
- 自発性の挑発
- 自立への努力を受け止める
- 決定の余地を与える
- 自己決定への要求に応じる
- 子ども一人ひとりの長所を伸ばす
- 自発性の配慮
- 創造性を呼びさます
- 子どもの決定を尊重する

子ども達の自発性と自己決定を促進することが、S 総合保育施設における発達と学習の重要な観点であることが明らかである。

### 3. 一日の流れ（日課）

S 総合保育施設の一日の流れは以下の通りである<sup>41</sup>。

7時	早朝保育（1ユニットで行う）
8時	すべてのユニット開園
8時半～9時	朝食と自由遊び
9時半	ユニットごとに子ども会議



10 時～ 12 時	提供活動，軽食（果物），自由遊び，園庭遊び
12 時	昼食
13 時	休息と昼寝 年少児と昼寝希望の子ども達は保育者と寝室へ行く。年中児は休息コーナーに集まって物語を聞く。年長児は自分のユニットの一つの部屋に集まる。
13 時半～ 14 時	休息の時間終了，昼寝継続の子どもあり
14 時半～ 16 時	おやつ（全日保育の子ども対象），自由遊び，順次降園
16 時～ 17 時	延長保育

あふれているようであった。



写真 6. 外遊びの前の身支度を手伝う年長児

### (1) 自由遊び

S 総合保育施設では、「遊びは子どもの長い発達期間におけるもっとも重要な活動である」<sup>42</sup>と考えられている。とりわけ自由遊びは幼児期の学びの基盤をつくり，重要である。なぜなら，日課の中で，子ども達が可能な限り自由に自分の活動を自己選択し，自発的な遊び欲求を追求することができるのが自由遊びの時間だからである<sup>43</sup>。「自由遊びの中で，子ども達は遊具や遊び相手を自分で選び出し，自分で目標と課題を定め，自発的に遊びの進行と長さを決定する。また，子ども達は能動性と受動性をも体験する。自由遊びの中では好運であることと不運であること，喜びと悲しみが起こる。」<sup>44</sup> こうして，子ども達は自立，行動力，社会性を発達させるための機会を得る。さらに子ども達は自分の欲求を実現するだけでなく，自分自身の限界を知るためにも自由遊びを必要としている。「自由遊びの中では子ども達は出来る限り大人に依存しないことを経験し，自分で取り組むことを学び，自己責任を担う能力を大いに習得する。」<sup>45</sup> これらすべては自主的な学びの基盤の要素なのである。

以上が S 総合保育施設における自由遊びについての考え方である。自由遊びの中では自然な形で異年齢のかかわりがみられる。写真 6 は園庭で遊ぶ前の着替えを自発的に年長児が手伝っているシーンである。冬のドイツの園庭で遊ぶためには防寒具を身につける必要がある。コート掛けのベンチに座って着替えに奮闘する子ども達の姿は印象的である。園庭で遊ぶために，帽子，ジャケット，防寒ズボン，長靴，手袋に着替えることは，年少児にとって容易なことではない。年長児は自発的に年少児の世話をしており，その姿は自信に

### (2) 教育提供活動

S 総合保育施設では，子ども達の教育を受ける権利実現は，社会における機会均等への重要な一歩であるという考えから，日課の中に教育提供活動の時間を確保している<sup>46</sup>。つまり，子どもの連続的な教育を通して，人格，素質，精神的身体的能力は有効に働くべきである。この権利を子ども達は就学期からはじめて獲得するのでなく，すでに生まれた時から持っているのである<sup>47</sup>。S 総合保育施設では毎日 4 つのユニットごとに子ども達が自由に参加する（就学前プロジェクトは義務である）提供活動が設けられる。ユニットごとに 1 人の保育者が提供活動を準備して，関心を持ったすべての子ども達が参加するまで午前中実行される。

筆者がこれまでフィールドワークを行ったミュンヘン市及びシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州の保育施設においても，自由遊びだけでなく，保育者によって企画準備された提供活動が日課の中に位置づいていた。子ども達の学びの保障のために，自由遊びと連動しながら日常的に提供活動は展開している。しかし，日本の従来型の設定保育<sup>48</sup>と明確に違う点は，保育者によって準備された活動と言えども，子ども達の選択する自由，決定する自由が最大限に保障されていることである。BEP では子ども達の参加する権利と共に，参加しない権利をも次のように認めている（船越 2012，2013）。

「子どもたちは発達に応じて，自分たちに関係しているすべての決定に参加する権利を持っている。しかし同時に参加しないことも権利である。権利を行使するという子ども側の自由意志に対し

て、子どもたちを参加させ、参加することへの関心と呼び起こすという大人の責務が対峙している。」<sup>49</sup>

子どもたちの参加する権利の行使は、彼らの自由意志に任されている一方、保育者は、子どもたちが参加することに関心をもてるような企画や働きかけをする責務を担っているのである。

### (3) 子ども会議

S 総合保育施設では毎日 9 時半にすべてのユニットごとで子ども会議が開催される。子ども会議への参加はユニットのすべての子どもと保育者にとって義務付けられている。具体的には次のようなことが話し合われ、とり決められる。

- 子ども達の出席確認
- 子ども達が自分の関心事を持ちだし、伝え、願いを述べることができる
- ゲームと歌
- 今日は何曜日か確認する
- 一日の流れ（日課）について話し合う
- 保育者から今日の提供活動が説明される
- 提供活動ごとにグループ分けが行われる

既述した提供活動については、子ども会議の中で保育者によって紹介され、参加希望者をグループ分けする。提供活動は 5 つの教育領域（メディア、創造性、音楽とリトミック、運動教育、自然や事物との出会い）からの一つの領域に基づいている。また、提供活動は園の年間テーマや季節別テーマを促進する形で実施される。

S 総合保育施設の子どもの会議は拡大された異年齢混合グループの特徴がクローズアップされる瞬間である。決まった手順で、出席と曜日の確認がなされ、歌やゲームで交流すると共に、子ども達の意見表明の場でもある。年少児たちには年長児のような積極的な議論への参加は困難ではあるが、その場の雰囲気や他の子ども達の言動、保育者の対応を観察しているのである。年齢混合グループにおける年少児による観察もまた、保育施設の日常への参画であることを保育者が真面目に受けとめることが重要なのである。年少児は年長児や保育者を模倣しながら、民主主義的技法を習得しているのである。それと共に、内的分化の原理によって、年少児の同年齢グループを構成して、発達に合った形での参画を促すことも求められる。



写真 7. 子ども会議



写真 8. 子ども会議で 0 歳児を膝に抱く年長児

### 4. グループ構成—内的分化の実際

S 総合保育施設では 4 つのユニットごとに、グループ横断的でオープンな活動によって、子ども達は内的開放性を体験する<sup>50</sup>。つまり子ども達は自由遊びの時間、ユニット内のどの部屋で遊ぶのか、どの遊び相手やグループと遊ぶのかを自分で選択できる。遊び場所としてテラスや園庭も開放されている。これとは対照的に、目標をもった活動時では、子ども達の発達状況、そのつどの提供活動の目標等によって、保育者によるグループ編成がおこなわれる。表 1 は S 総合保育施設で行われているグループ構成に関する考え方である。

グループ全体の子どもの会議、及び祭りや会食は施設全体で行われる活動である。毎日の子どもの会議、自由遊び、提供活動は異年齢グループで実施される。休憩時間や行事の準備、体育は同年齢グループで行われる。特に就学前プロジェクトは小学校へのスムーズな移行を図るための活動であるため、同年齢グループで進められる。また、年少児の子ども達の発達支援のための小グループ、移民の背景を持つ子ども達等への言語支援のための小グループなど、一人ひとりの子ども達のニーズ



表 1. S 総合保育施設のグループ構成

グループ形態	目標	活動
グループ全体	連帯感 所属感 相互学習 共通テーマに取り組む	子ども会議 祝祭 会食
同年齢グループ	特定発達領域の促進 同年齢児と共同作業 発達状況に適應	祝祭準備 休息時間 就学前プロジェクト 体育 3歳未満児の小グループ
異年齢グループ	社会的態度の促進 年少児は年長児から学ぶ	子ども会議 自由遊び ユニット横断プロジェクト 5つの教育領域からの提供活動
小グループ	個別支援と言語支援 最年少児のグループ	自由遊び 着替え 5つの教育領域からの提供活動

(S 総合保育施設のコンセプトを基に筆者が翻訳作成した。)

に合わせてグループが構成されることによって、  
内的分化が行われている。



写真 9. 年長児の体育

## 5. 就学前プロジェクト

S 総合保育施設では、BEP に依拠して子ども達の就学準備と移行をスムーズにするために、就学前プロジェクトを提供している。子ども達の興味によって構成されるプロジェクトのテーマは5つの教育領域から生まれる<sup>51</sup>。小学校クラスの印象や流れを知るために、4つのユニットの就学前の子ども達は、週に一回集まる。各ユニットから1人の保育者が就学前プロジェクトに参加し、保育施設最終年の助言者となる。4人の保育者はチームを結成して、共同でプロジェクトを準備し、すべての活動のドキュメンテーションをプロジェクトボードに掲示する。就学前プロジェクト

は朝の会と共に9時にスタートし、活動に応じて12時から13時の間で終了する。就学前プロジェクトへの参加は子どもにとって義務である。就学前プロジェクトに加えて、昼食後の時間に、各ユニットで就学前の子ども達のためにテーマの復習として提供活動が与えられる。

筆者はS 総合保育施設の就学前プロジェクトを2007年11月27日に観察した。就学前プロジェクトは毎週火曜日に行われており、この日は9時40分に年長児31名と保育者4名がホールに集まった。まず初めに、子どもが司会者となって子ども会議を行う。朝の挨拶、出席と曜日の確認が行われた。その後保育者から先週出された宿題は何だったかと問われる。宿題は子ども達の顔写真と自宅住所を持参することであった。ホールの床に布でS 総合保育施設が示され、保育者から建物の構成部分について質問されると、子ども達は「床」、「屋根」、「ドア」、「窓」等と答えた。次に施設の住所が確認された。挙手をして指名された子どもが順に布の上に座って、自分の名前と自宅住所を言う。その後、小グループに分かれて、本物の地図上でS 総合保育施設と子ども達の自宅の場所を、担当保育者がリードして確認した。子ども達は続いて、白紙に色鉛筆で自分の家を描き、自分の顔写真を貼って切り抜く作業を行った。道路も紙で作って、一人ひとりの作品をつないで、子ども達の地図が完成した。保育者によって地図は廊下のボードに掲示された。10時40分に活動が一区切りしたのち、年長児グループは果物を食べる時間を迎えた。1人の男児はまだ完成

しておらず、友達が手伝ったり、助言して協力していた。

小学校へのスムーズな移行がBEPの中で重要課題となっていることから、就学前プロジェクトへの参加は年長児にとって義務である。保育施設最終年を迎えた年長児は、自由と義務の兼ね合いを経験し、保育施設の日常に参画する能力を習得しなければならない。



写真 10. 就学前プロジェクト—地図作り

## V. おわりに—チャンスと豊かさとしての不均質性

既述したように、「障害者の権利に関する条約」(障害者権利条約)が2009年ドイツにおいて発効して以来、インクルージョンの精神を受けて、多様性の教育はさらに意識化されるようになった。2012年に刊行された「バイエルン州教育指針」によれば、保育施設や学校は多様性が出会う場であると捉えられ、不均質性をチャンスとして受けとめている。

「相違性の受容と多様性とのかわり合いは社会的義務であり、豊かさである。インクルージョンは教育のために大いなるチャンスをも提供する。」<sup>52</sup>

「多様性が豊かさとして承認され、尊重される不均質な学習グループは、一人ひとりの子どもが能力をさらに発達させるチャンスを提供する。」<sup>53</sup>

保育実践では、オープン保育が主流となっている。オープン保育において、一人ひとりの違いを尊重し、かつ発達を促進するためには、保育施設を内的分化していく必要があると考えられて

いる。内的分化によって、多様性の教育をさらに深化発展させていくことが目指されている。S総合保育施設は拡大された異年齢グループと言う点が特徴的な施設である。日課の中で、内的分化をその都度行いながら、自由と義務の兼ね合いをも子ども達は学んでいく。

子ども達の参画については、インクルーシブな教育との関連で捉えられなければならない。「バイエルン州教育指針」によれば、「参画(Partizipation)と共同—構築(KO-Konstruktion)は、インクルーシブな多様性の教育が発展し、その可能性が展開することのできる最善の枠組みを提供する」<sup>54</sup>としている。すべての子ども達の参画、そして子ども達と保育者達との共同—構築こそが、多様性の教育の鍵概念なのである。

研究対象としたミュンヘン市はその歴史的過ちへの反省を背景に、「多様であること」に特別な意味を見出しているように捉えられる。それは同時に現在ますます深刻化している、人種差別主義や排外思想に対する砦であり、闘いであるのかもしれない。

今後は2014年以来急増している難民の子ども達の状況をも見据えながら、移民の背景を持つ子ども達に焦点化して、ドイツの保育施設における子ども達の参画について探究していくこととする。

## 謝辞

保育見学を支援してくださったミュンヘン市教育・スポーツ課のグレッツェ博士と故ミヤトヴィッチ氏、ミュンヘン市立幼稚園一級保育者ベルガー有希子氏、及びS総合保育施設の諸先生方に心より感謝申し上げます。

## 付記

本研究はJSPS科研費15K04304の助成を受けたものである。本論文は、その一部を日本教育学会第74回大会にて発表した。

## 註

<sup>1</sup> Kultusminister Konferenz, Jugendministerkonferenz 2004: Gemeinsamer Rahmen der Länder für die frühe Bildung in Kindertageseinrichtungen. Beschluss der Jugendministerkonferenz vom 13./14.05.2004/ Beschluss der Kultusministerkonferenz vom 03./04.06.2004. [http://www.kmk.org/fileadmin/veroeffentlichungen\\_beschluesse/2004/2004\\_06\\_03-Fruehe-Bildung-Kindertageseinrichtungen](http://www.kmk.org/fileadmin/veroeffentlichungen_beschluesse/2004/2004_06_03-Fruehe-Bildung-Kindertageseinrichtungen).

pdf(17.09.2014)

<sup>2</sup> Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2007): Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Berlin: Cornelsen. (以下, BEP と略)

<sup>3</sup> Ministerium für Soziales, Gesundheit, Familie und Gleichstellung des Landes Schleswig-Holstein(2012): Erfolgreich starten. Leitlinien zum Bildungsauftrag in Kindertageseinrichtungen, Kiel.

<sup>4</sup> 船越美穂「幼児期における民主主義への教育(V) —シュレースヴィヒ=ホルシュタイン州の保育施設における子ども達の参画—」『福岡教育大学紀要 第64号 第4分冊』2015年

<sup>5</sup> 船越美穂「幼児期における民主主義への教育(II) —『バイエルン陶冶—訓育計画』における『参加』(Partizipation)の思想と実践—」『福岡教育大学紀要 第61号 第4分冊』2012年

船越美穂「幼児期における民主主義への教育(III) —Willy-Althof-Kindergartenにおける実践」『福岡教育大学紀要 第62号 第4分冊』2013年

<sup>6</sup> Bundesamt für Migration und Flüchtlinge. Migrationsbericht 2013, Zentrale Ergebnisse, [http://www.bamf.de/SharedDocs/Anlagen/DE/Downloads/Infothek/Forschung/Studien/migrationsbericht-2013-zentrale-ergebnisse.pdf?\\_\\_blob=publicationFile\(2015.9.12\)](http://www.bamf.de/SharedDocs/Anlagen/DE/Downloads/Infothek/Forschung/Studien/migrationsbericht-2013-zentrale-ergebnisse.pdf?__blob=publicationFile(2015.9.12))

<sup>7</sup> tagesschau.de. Flüchtlinge- Daten und Fakten, Asylanträge in Deutschland, [http://www.tagesschau.de/multimedia/animation/fluechtlinge-865.html\(2015.9.12\)](http://www.tagesschau.de/multimedia/animation/fluechtlinge-865.html(2015.9.12))

<sup>8</sup> Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2010): Bildung, Erziehung und Betreuung von Kindern in den ersten drei Lebensjahren. Eine Handreichung zum Bayerischen Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Weimar/Berlin: verlag das netz.

<sup>9</sup> Ibid., S.31.

<sup>10</sup> Ibid.

<sup>11</sup> Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen & Bayerisches Staatsministerium für Unterricht und Kultus(2012): Gemeinsam Verantwortungstragen. Bayerische Leitlinien

für die Bildung und Erziehung von Kindern bis zum Ende der Grundschulzeit. Verfügbar unter [www.zukunftsministerium.bayern.de](http://www.zukunftsministerium.bayern.de)

<sup>12</sup> Ibid., S.32.

<sup>13</sup> Ibid.

<sup>14</sup> BEP., S.33.

<sup>15</sup> BEP., S.33.

<sup>16</sup> BEP., S.129.

<sup>17</sup> ミュンヘン市の拡大された年齢混合保育施設には子ども達の家 (Häuser für Kinder), 総合保育施設 (Kooperationseinrichtungen), 子ども保育センター (KinderTagesZentren) がある。

<sup>18</sup> BEP., S.129-130.

<sup>19</sup> BEP., S.130-131.

<sup>20</sup> BEP., S.133.

<sup>21</sup> BEP., S.133-134.

<sup>22</sup> BEP., S.135.

<sup>23</sup> BEP., S.136.

<sup>24</sup> BEP., S.141.

<sup>25</sup> BEP., S.141.

<sup>26</sup> BEP., S.141-142.

<sup>27</sup> 社会保障法典 (連邦司法省ホームページ [http://www.gesetze-im-internet.de/sgb\\_9/\\_4.html](http://www.gesetze-im-internet.de/sgb_9/_4.html))

<sup>28</sup> バイエルン州保育法 (バイエルン州労働, 社会, 家庭, 統合省 <http://www.stmas.bayern.de/kinderbetreuung/baykibig/neu.php>)

<sup>29</sup> BEP., S.163.

<sup>30</sup> BEP., S.166.

<sup>31</sup> BEP., S.170.

<sup>32</sup> BEP., S.168.

<sup>33</sup> BEP., S.170.

<sup>34</sup> Bildung, Erziehung und Betreuung von Kindern in den ersten drei Lebensjahren., S.33.

<sup>35</sup> Gemeinsam Verantwortungstragen., S.35.

<sup>36</sup> ミュンヘン市の各保育施設では BEP に基づいてコンセプトを作成している。本稿では S 総合保育施設の教育目的や構造を理解するために使用した。

Die Städtische Kooperationseinrichtung „Die Schmetterlinge“ für Kinder von der 9. Lebenswoche bis zum Schuleintritt(2005). Konzeption (以下, Konzeption と略)

<sup>37</sup> Konzeption. S.5.

<sup>38</sup> Konzeption. S.22.

<sup>39</sup> Konzeption. S.7.

<sup>40</sup> Konzeption. S.7.

<sup>41</sup> Konzeption. S.20.

<sup>42</sup> Konzeption. S.12.



<sup>43</sup> Konzeption. S.12.

<sup>44</sup> Konzeption. S.12.

<sup>45</sup> Konzeption. S.12.

<sup>46</sup> Konzeption. S.14.

<sup>47</sup> Konzeption. S.14.

<sup>48</sup> 日本においても、今日では従来型の一斉に同じ活動に取り組むタイプの設定保育だけでなく、子ども達と共に企画し活動を展開していく保育が見

られるようになってきた。

<sup>49</sup> BEP., S. 401.

<sup>50</sup> Konzeption. S.18.

<sup>51</sup> Konzeption. S.19.

<sup>52</sup> Gemeinsam Verantwortungstragen., S.32.

<sup>53</sup> Ibid., S.35.

<sup>54</sup> Ibid.